

## スッカン沢・桜沢山行報告書

【山行日】平成 27 年 6 月 7 日（日）

【参加者】CL 柘植 富樫(富) 細谷(記録)

【コース】山の駅たかはら(6:30)～二股(スッカン沢出会い)(7:30)～雄飛の滝(9:30)～雄飛橋(9:30)～二股(咆哮霹靂の滝)(10:20)～雷霆の滝(11:10)～道の駅たかはら(12:30)

【天 候】晴れ

矢板 IC を出て、“道の駅やいた”で仮眠。土曜日の夕刻に千葉を出たため、0 時前には就寝した。本日の目的は、コバルトブルーの滝が拝めるスッカン沢と桜沢の壮大なナメを満喫すること。

“山の駅たかはら”に車を駐車し、そこから 1 時間ほど遊歩道を降りていくとスッカン沢と桜沢が分岐する二股に到着。

前半は、スッカン沢の遡行。昨日の雨の影響か水量が多いため、暫く沢沿い歩く。周りは、見事な柱状の側壁が続き、遊歩道の橋をくぐると間もなく雄飛の滝が現れた。



写真でみたとおりコバルト色がかったいるが、まだ日が差しておらず、驚くほどきれいなものではなかった。ここは直登できないため遊歩道を利用する。遊歩道には観瀑台が設けられており、上から見た滝のほうからはるかに色は綺麗であった。しばらく遊歩道を進み、仁三郎の滝を左手にみながら、素廉の滝から再び入水。水はさらに白っぽさを増し、岩を見ると温泉成分が付着しているようでもある。(この状態を、リーダーは石鹸を溶かした風呂に入っているようだと表現していた)



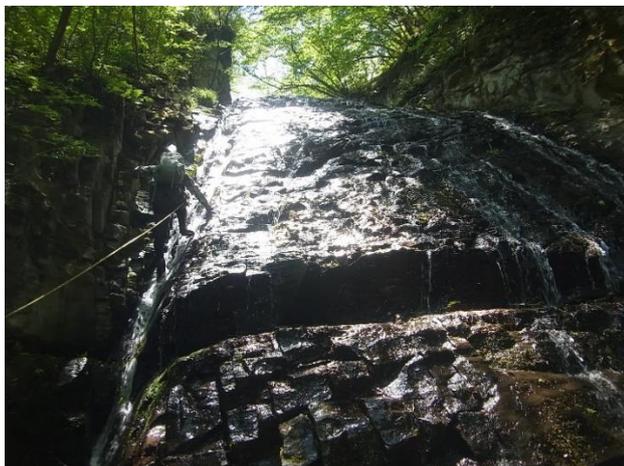
スッカン沢の由来は、「酸っ辛い沢」ということであつたので、ちょっと水を舐めてみたが、味覚の鈍い私には酸っぱい？辛い？どちらも感じなかつた（さすがに飲むには厳しいと感じたが・・・）。

さらに歩を進めると、高さはないがゴルジュ状の岩が続く。周りの岩は苔むされ、そこにいくつもの滴が落ちている。私の最もお気に入りの場所である。

間もなくすると、雄飛橋が現れここから国道を横切り遊歩道に戻つた。遊歩道は途中、東日本大震災により崩落した部分があり、進入禁止となつていたが、通行上問題になるようなものはなかつた。



後半戦は桜沢。目の前にある咆哮霹靂の滝を左側から登っていく。前半は水を浴びることはなかつたが、この季節は滝の飛沫があたると気持ちが良い。するとその滝の上には壮大なナメが広がっていた。



さらにナメは続き、先に進むと雷霆の滝が出現。この脇を遊歩道が通っているが、巻くのは呆気ないため、ルートを見極めながら直登。遊歩道からはハイカーが登攀している我々を珍しそうに見物していた。この上にもナメが連続しており、癒し気分で進んでいったが、大きな岩が出てきだすと、「この先は面白くなさそうだから」というリーダーの一声で早々に遊歩道へ。再び朝下つた遊歩道を上って駐車場まで戻つた。



本日の2本の沢は千葉から比較的近く、難しいところも特にないため、癒しを求める人には手ごろで、良い沢であると感じた。

以上